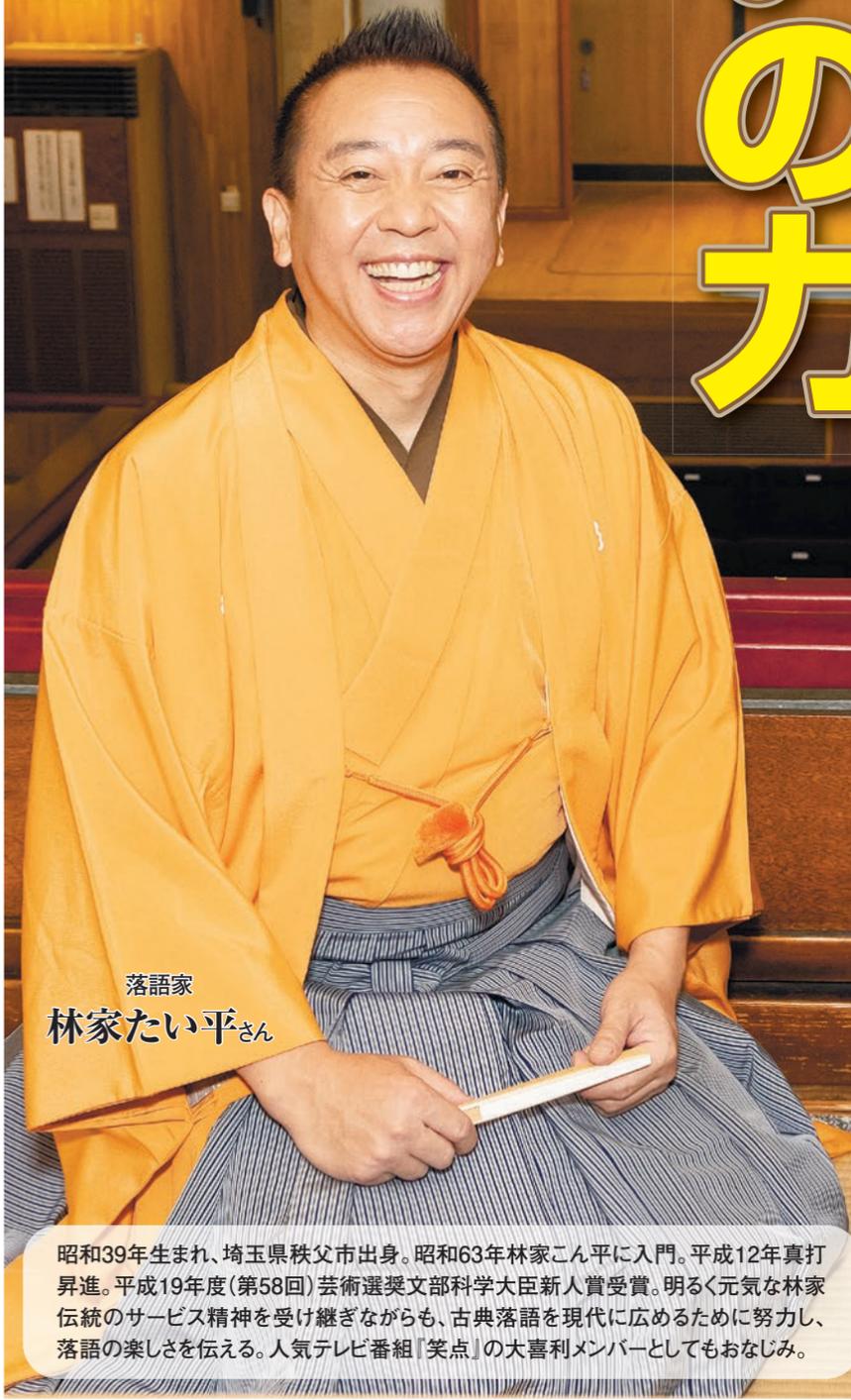


人もまちなも 明るくする 笑いの力



落語家
林家たい平さん

新宿区長
吉住 健一

昭和39年生まれ、埼玉県秩父市出身。昭和63年林家こん平に入門。平成12年真打昇進。平成19年度(第58回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。明るく元気な林家伝統のサービス精神を受け継ぎながらも、古典落語を現代に広めるために努力し、落語の楽しさを伝える。人気テレビ番組「笑点」の大喜利メンバーとしてもおなじみ。

撮影場所:新宿末廣亭

あけまして
おめでとう
ございます



新宿区長
吉住 健一

区民の皆さまには、穏やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年が、皆さまにとって幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

今年も寅年ですが、寅は、「変革」の象徴と言われます。

また、志を同じくするものが助け合い、物事を進める意味があります。新宿のまちの人々が、力を合わせて、コロナ禍から日常を取り戻す年にしてまいりましょう。

困難な時代を如何に過ごすか

新宿区名誉区民の三遊亭金翁(92)さんは現役で活動されていますが、芸歴は戦中からで80年を超える落語界最古参の噺家さんです。東京大空襲に遭遇して命拾いをした経験もあるそうで、戦争中は腹話術で学童疎開への慰問に回りながら、芸歴を重ねたそうです。近年は膝を痛くしたり、病気で臥せったりしたときもありましたが、昨年10月30日には高座に上がられました。日ごろは「早口言葉」のトレーニングもされているそうですが、落語についても「一生、勉強ですよ。」とインタビューに答えておられます。*困難に見舞われても、前向きに歩まれている金翁師匠のような生き方に憧れの気持ちを持ちます。

日常を取り戻す

自粛している活動を、すぐにもとに戻すのは難しいと思いますが、感染状況を見極めながら、前に進むことが大切です。区は、これまでに蓄積してきたコロナ対応の経験をもとに、区民の皆様のような活動が継続できるように、取り組んでまいります。未だ新型コロナへの警戒が必要になりますが、どのような状況にあっても、日々の生活の中に自分なりの喜びや楽しみを見つけて、明るく過ごしていただければ幸いです。

今年も現場・現実を重視しながら、人々が日常を取り戻して、まち全体が元気になれるよう、地域の皆さんとともに取り組んでまいります。

本年も、区政にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*参考: 読売新聞オンライン「長井好弘's eye」

*本紙は新聞折り込みでお届けしています。主な区立施設・駅・スーパー・新聞販売店などにも置いています。新聞を購読していない方には配達します。

東京で唯一、木造の寄席を残し 笑いを温かく見守るまち 新宿

区長：新宿末廣亭は、東京に4軒ある「定席」の寄席で落語などの興行を毎日行なっています。たい平さんにとってどんな場所ですか。

たい平：落語家を目指した頃が一番憧れの場所です。江戸の香り、落語の香りに満ちていて、一步入ると新宿三丁目が江戸の町に変わるんですよ。寄席を知らない方も、末廣亭の前を通るとこの外観に目を惹かれるでしょう。

区長：末廣亭は文化・芸能の上でも、地域の歴史の上でも重要であり、区の地域文化財の第1号に認定されています。

たい平：落語には扇子で高座の板を叩く所作がありますが、その跡が無数にある所に歴史を感じますし、先輩師匠方に見守られているようです。私が好きなのは、寄席が終わってお客さんを送り出す太鼓の音がまちに響き渡る時間です。

区長：新宿は歌舞伎町のイメージが強いですが、新宿三丁目は末廣

亭があることで、昔ながらの独特な雰囲気があり、地域から人を惹き付ける不思議な魅力を感じます。

たい平：周辺の飲食店も他とは違う空気があり、常連のお客様が続いています。私がまだ前座の頃、師匠に連れられてお店に行くと、皆さん声をかけてくださって。

区長：末廣亭が絶えず人を引き寄せるので、個性豊かなお店が続いているんでしょうね。落語以外の新宿での思い出はありますか。

たい平：東京に出てきて初めて映画を見たのが歌舞伎町でした。美大生でしたので世界堂によく来ていて、今でも寄席の合間にちよこちよこ行っています。

区長：区内にはルミネtheよしもとや紀伊國屋ホールもありますし、新宿文化センターなどでも落語会が開催されています。住民の皆さんが落語会を開いている地域センターもあります。新宿は笑いが好きな人が多いまちだと思います。

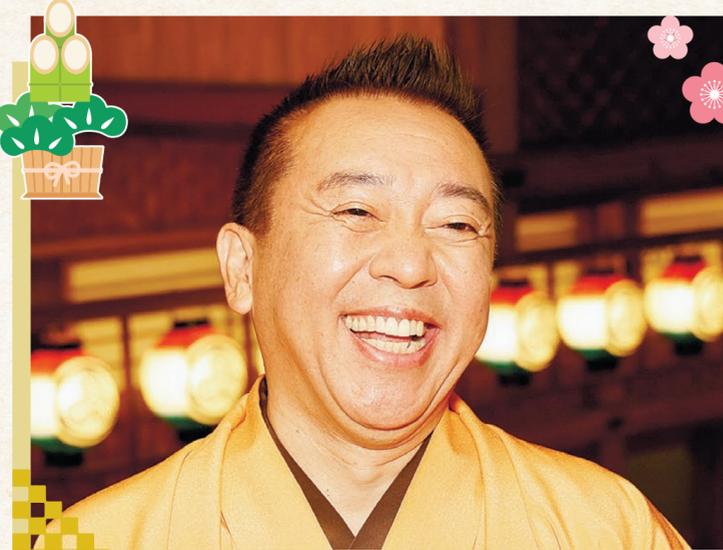
寄席を通して見つける人の魅力

たい平：区長さんは寄席には行きませんが。

区長：子どもの頃、親と行ったらしいのですが、私が途中で声を出してしまったのか、出演者の方に

たしなめられたらしく、以来、足が遠のいてしまったようで…

たい平：昔の寄席の音源を聞くと、子どもの笑い声も入っています。おじいちゃんが連れて来たり、親



落語家 林家たい平さん



笑いのまち新宿発 お正月対談

新宿には、落語や漫才などの笑いを楽しめる寄席や劇場などがあり、毎日、多くの人々に笑いを届けています。新型コロナで落ち込みがちの人々の気持ちを前向きにさせてくれる笑いの力について、区長と落語家の林家たい平さんが区内の寄席・新宿末廣亭で語り合いました。

コロナの中だからこそ見えてきたもの

区長：コロナで落語家の皆さんもご苦労されているのではないのでしょうか。

たい平：1年ほど公演がなくなり、落語を聞いてもらう場所自体がなくなっていきました。一度活動の火が消えてしまうと、新たなものを作り出すのはとても大変なんです。落語の火を消してはいけないと、落語界では「寄席支援プロジェクト」を立ち上げて、クラウドファンディングを募り、多くの方にご協力をいただきました。活動ができない間、笑いではない方法で空いた時間を自分じゃない誰かの力になる使い方をしたいと思い、手ぬぐいを使ったマスク作りをしました。実家がテラーで子どもの頃からミシンに親しんでいましたので。

区長：空いてしまった時間で人のためにできることをやろうと行動されたのは素晴らしいことですね。

たい平：コロナ下の時間で落語の稽古だけでは見えないものが見えてきたところがあり、それが今の落

語にも生きています。
区長：YouTubeの配信もされていますよね。

たい平：ええ。息子が弟子になっていて、彼が編集からサイトへのアップロードまで担ってくれました。おかげで師弟関係とは別の視点で彼を尊敬でき、親子関係が深まりました。

区長：区には劇団の方なども多く、皆さんから発表の場が欲しいという声が上がっていました。そこで、オンライン配信の収録に必要な器具のレンタル費用などを補助したところ、多くの申し込みがありました。新宿の豊かな文化を担う皆さんのお力に少しでもなれたのではないかと思います。

たい平：不要不急と言われがちな演芸や演劇などに目を向けてくださるのは、アーティストにとって本当にありがたいことだと思います。コロナ後は、今度は自分たちが力になろうという気持ちにつながっていきますよね。

笑いの力で明るい日々を

区長：ようやくまちを歩く人の様子が変わってきたなと感じます。皆さんの笑い声が聞こえるようになってきましたから。

たい平：そうなんですね。まちに笑い声が響いているって、幸せな気持ちになりますよね。

区長：はい。笑顔が多い方が気持ちも上がりますし、笑うことの大切さを実感しますね。

たい平：笑えない状況が続いていた中で、久しぶりに思い切り笑うと、生きているってこういうことだって実感しますよね。それが笑いの一番の効能なのでは。笑うと温かい血が全身に流れるような気がするんです。自分が笑うのはもちろん、人が笑っているのを見聞きするのも、体の栄養になると思うんです。

区長：人が笑っていると、つられて笑っちゃいますよね。行政の仕事も同じところがあります。区民に喜んでもらいたいというのが基本で、イベントなどでも、笑ったり、感動したり、考えるきっかけにもらいたい。そのために、職員も楽しいと思って仕事をすることが大切だと思うんです。

たい平：お互いにサービス業というところでは、同じですね。

区長：はい。今回、コロナの感染拡大でマスクなどの基本的な予防策

が区民に身に付いたことで、インフルエンザなどの感染症の数が減る効果がありました。また、区内の学校では 심각한感染対策を行うことでクラスターを発生させずに小・中学校の運動会等の学校行事に取り組んできました。これまでに得た感染症への知見を生かして、子どもたちに修学旅行などの友人との思い出となる行事を体験させたいと考えています。

たい平：難しいことを進めるときこそ、トップが笑顔でいることが重要です。区長さんは職員の方にギャグを言ったりするんですか？

区長：時々…。滑っていますけれど。
たい平：それは素敵なことですよ。近くにいる人を笑顔にさせるのって、大切ですよね。

区長：ありがとうございます。今後の目標はなんですか。

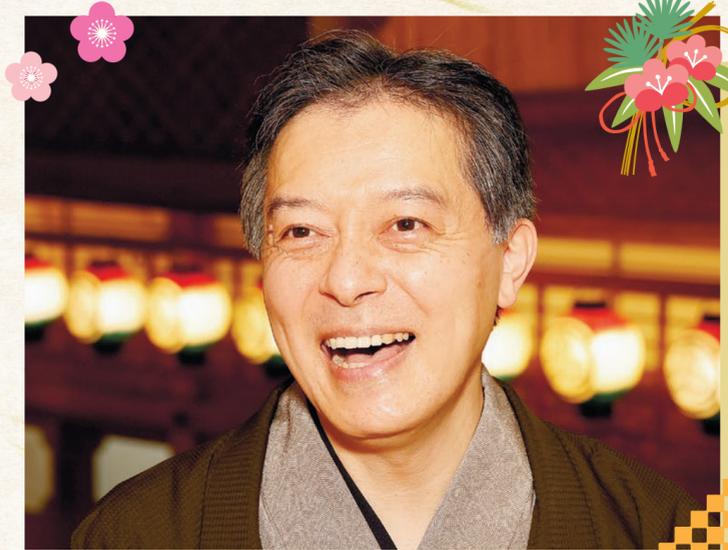
たい平：コロナが落ち着いてから、みんなが寄席に足を運んでくれたときに笑うことがこんなに楽しいんだと実感してもらえるよう、より良い笑いを提供できるよう日々研鑽を積みたいですね。

区長：たい平さんにとって「笑い」とは。

たい平：生きるエネルギー！です。

区長：区長さんは？

区長：百薬の長、ですね。



新宿区長 吉住 健一

たい平師匠にご紹介いただいた

お正月にふさわしいめでたい落語

かつぎや

度を越して縁起をかつぐ呉服屋の旦那の五兵衛さん。店のものにも縁起を担いだ言い回しや呼び名をさせようとするが、おちょくられたり、逆に縁起の悪い呼び方になってしまったりで、頭が痛い。気の利く番頭のとりなしでなんとか毎日やり過ごしている。

さて「お宝、お宝」と船屋が七福神の宝船の絵を売りに来た。これは正月に枕の下に敷いていい初夢を見るというもの。ところが船屋が宝船の値を「四文(しもん)、十枚で四十文(しじゅうもん)、百枚で四百文(しひゃくもん)」と、縁起の悪い言い方をするので五兵衛さんに買ってもらえない。

困った番頭は、別の船屋を見つけて、縁起の悪い言葉は言わないようにと念押しして店へ連れて来る。今度の船屋が要領よく宝船の値を「四文(よんもん)、十枚で四十文(よじゅうもん)、百枚で四百文(よひゃくもん)」と縁起のいい言い方をすると、すっかり五兵衛さんは喜んで祝儀まではずむほど。さらに船屋が「旦那様、お宅様では七福神がお揃いですな」と言うと、五兵衛さんは「嬉しいことを言ってくれるな。どこに揃っているんだ」と尋ねる。船屋が「えー、旦那様がニコニコ恵比寿顔でいらっしゃいます。それから先ほどあちらにお顔が見えましたお綺麗な方は、お嬢様で・・・それで弁天様と、これで七福神が揃いました」と答える。

五兵衛さん 「えっ、恵比寿と弁天ではまだ二福じゃないか」

船屋 「ご商売が呉服(五福)でございます」

新宿末廣亭 **あれこれ**

新宿末廣亭には、江戸の風情を感じさせる意匠や落語の歴史を物語る貴重な看板などが残されています。



▲新宿末廣亭(外観)



▲高座を見やすいよう、一階席の中央に向かって斜めに角度がついている棧敷席



▲開業十周年記念を祝して芸人の皆さんから寄贈された消し札を額に入れて飾っています。有名な師匠たちの名前がずらり

▲新宿区地域文化財第一号の認定プレート

しんじゅく笑いスポット紹介

紀伊國屋ホール



紀伊國屋書店新宿本店ビルの4階にあるホールでは、1964(昭和39)年の開場当時から紀伊國屋寄席を開催。

ルミネtheよしもと



JR新宿駅すぐの「ルミネ2」7階にある吉本の東日本最大常設劇場。人気芸人のお笑いライブを毎日公演中。

新宿文化センター



舞台や音楽コンサートのほか、気鋭の噺家が集う落語会や新春恒例の狂言を開催しています。伝統的な「笑い」を気軽に楽しめます。

寅 新宿 この一年

新型コロナの感染状況により、今後、イベント等を中止・変更する場合があります。最新の情報は、各主催者・各施設に直接、ご確認ください。

- 1月 ▶ 10日 成人の日「はたちのつどい」=京王プラザホテル 総務課総務係 ☎(5273)3505
- ▶ 30日 フレッシュ名曲コンサート「北欧への誘い」 新宿文化センター ☎(3350)1141
- 2月 ▶ 25日~27日 染の小道=中井駅周辺 染の小道実行委員会 ☎(3368)8133
- 3月 ▶ 落合第一地域センターまつり=落合第一地域センター 同センター ☎(3954)1611
- ▶ 下旬 男女共同参画フォーラム 男女共同参画課 ☎(3341)0801、四谷ふれあい祭り=四谷地域センター 同センター ☎(3351)3314
- 4月 ▶ 2日 レガスマつり=新宿コスミックセンターほか 新宿未来創造財団 ☎(3232)7701
- ▶ 下旬~5月上旬 こいのぼりの飾りつけ=西戸山公園ほか 区政情報課広報係 ☎(5273)4064
- 5月 ▶ 5日 芸術体験ひろば 文化観光課文化観光係 ☎(5273)4069
- ▶ 14日 新宿春の楽しいジャズまつり 新宿文化センター ☎(3350)1141

- 6月 ▶ 中旬 落合第二地域センター開館記念イベント=落合第二地域センター 同センター ☎(3951)9941、新宿子育てメッセ 子ども家庭支援課子育て支援係 ☎(3232)0695
- 7月 ▶ 7月~8月 新宿中央公園水と緑のイブニングバー=新宿中央公園 同園管理事務所 ☎(3342)4509、新宿中央公園ジャブジャブ池の開設=新宿中央公園 同園管理事務所 ☎(3342)4509
- ▶ 上旬 「社会を明るくする運動」パレード・式典=新宿通り 子ども家庭課企画係 ☎(5273)4261
- ▶ 中旬~8月中旬 神田川親水テラスの開放=神田川親水テラス 園みどり公園課みどりの係 ☎(5273)3924
- ▶ 20日~23日 神楽坂まつり(ほおずき市・阿波踊り大会) 神楽坂通り商店会事務所 ☎(3268)2802
- ▶ 30日 新宿エイサーまつり=新宿通りほか 新宿駅前商店街振興組合 ☎(3352)6713
- 9月 ▶ 9月~11月 生涯学習フェスティバル 新宿文化センター ☎(3350)1141
- ▶ 下旬 戸塚地域センターまつり=戸塚地域センター 同センター ☎(3209)8001
- 10月 ▶ 1日~31日 大新宿区まつり 文化観光課文化観光係 ☎(5273)4069
- ▶ 1日~11月30日 新宿フィールドミュージアム 文化観光

- 課文化観光係 ☎(5273)4069
- ▶ 10日 新宿スポレク=新宿コスミックセンターほか 新宿未来創造財団 ☎(3232)7701
- ▶ 下旬 四谷文化祭・リサイクルフェア=四谷地域センター 同センター ☎(3351)3314、榎町地域センターまつり=榎町地域センター 同センター ☎(3202)8585
- 11月 ▶ 上旬 国史跡「林氏墓地」の公開 新宿歴史博物館 ☎(3359)2131
- ▶ 上旬~5年2月下旬 新宿歌舞伎町区役所通りイルミネーション 文化観光課文化観光係 ☎(5273)4069
- ▶ 12日 国際都市新宿・踊りの祭典 新宿文化センター ☎(3350)1141
- ▶ 中旬 落合第二地域センターまつり=落合第二地域センター 同センター ☎(3951)9941、新宿かしわまつり=柏木地域センター 同センター ☎(3363)7036、しんじゅく逸品PRイベント=新宿駅西口広場 イベントコーナー 産業振興課産業振興係 ☎(3344)0701、若者のつどい 男女共同参画課 ☎(3341)0801
- ▶ 中旬~下旬 若松ふれあいまつり=若松地域センター 同センター ☎(3209)6030
- 12月 ▶ 4日 角筈地域センターまつり=角筈地域センター 同センター ☎(3377)1373